



オトナのふるさと学習

# 月刊このへんだいすき

10月号

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶  
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ  
最近引っ越してきたあなたも  
生まれてこのかたずっと「このへん」なあなたも  
読めばたちまち、「このへんだいすき」に



## なべっこ遠足で作るものが違う。 「このへん」とあのへんの境目は？ そこに横から侵入してくる 意外なモノとはあれだった。

なべっこ  
遠足で

あのへん  
との境目

意外な  
モノとは



「このへん」に季節の訪れを告げるなべっこ。山に出かけて、地元産の豊かな食材を投入して作るなべっこ遠足は、みんなが好きな秋の楽しみ。

なべっこで作るのは当然いものこ汁。でも県北では圧倒的にぎりたんぼ鍋。となればそこには、両方の食文化がぶつかりあう境界線があるはず。



南北がせめぎあう最前線に登場したいものこでもぎりたんぼでもない、意外な第三勢力は、秋田市周辺から横入りしてきた、だまこ汁。

なべっこといえはばいものこ汁。「このへん」に生まれ育った誰もがそう思い、学校や町内のなべっこ遠足を楽しんできました。やれ味は味噌だの醤油だのとささいなうちわモメはあっても、平鹿の鶏に三関のセリ、山内のいものこで作るなべっこの王道はゆるがなないと信じてきました。しかし、県北の人とはなぜかなべっこ話がかみ合いません。それもそのはず。彼らの頭の中にあるなべっこは、百パーきりたんぼ鍋なのです。さらに、県内断トツの人口を抱える秋田市周辺では、だまこ汁が勢力を駆けつづります。いものこ汁の最前線は田沢湖の西側にある仙北市旧西木村まで。それより北はぎりたんぼ。そこに西からだまこ汁の先兵が攻めてきているという図式です。そんなこと、どつてもいいじゃないかと言われるかもしれませんが、そういえばそうですね。おつこいで、南の最上勢が辛煮に牛肉を入れてるとの情報が。ちよつと偵察に行ってください。



「このへん」のなべっこ遠足で作るのは、いものこ汁が当り前。でも、県北はぎりたんぼ、秋田市はだまこ汁が定番。その境界は仙北市。

